

(別紙2) 基礎編カリキュラム

(講義6.5時間 演習6.5時間 計13時間)

時間	科目名	講義名	内容
150	1. 強度行動障がいのある者の基本的な理解	講義 「研修の目的」(30)	本研修の5つの目的とねらい 本研修の対象者
		講義 「強度行動障がいって何？」(30)	強度行動障害施策の変遷 強度行動障害の定義 予防の視点 強度行動障害と家族の苦悩
		講義 「自閉症スペクトラム障がいについて」(30)	自閉症スペクトラム障がいの定義 自閉症の特性理解 強度行動障がいと自閉症
		講義 「医療からのアプローチ」(60)	強度行動障害と医学的な診断 強度行動障害の薬物療法 福祉と医療の連携・症例紹介
240	2. 強度行動障がいに関する諸制度及び支援技術の基礎的な知識	講義 「暮らしを支える仕組み」(30)	強度行動障がいに関係する社会資源や制度 重度障害者支援加算
		講義 「環境を整える」(60)	構造化された支援 自立を高める・自立課題
		講義 「チームによる支援」(30)	チームで支援することの意味 アセスメントから行動計画へ 記録の方法とモニタリング サービス提供プロセスの確認
		講義 「虐待は法律違反」(30)	強度行動障がいと虐待 虐待禁止と身体拘束3要件 地域で支える仕組みづくり
		講義 「支援の実際」(30) 「行動障がいを抱える人の地域での暮らし」(30)	幼児期・児童期の支援の実際 早期から予防的な介入と環境作り 青年・成人期の支援の実際 見通しと安心のもてる未来のための環境作り 強度行動障がいを抱えながら地域で暮らす
		講義 「支援者ケアの大切さ」(30)	バーンアウトの予防 バーンアウトが見られたら みんなでこの問題に取り組む
60	1. 基本的な情報収集と記録等の共有	演習 「記録と情報共有」(60)	記録のとりの工夫と情報共有するための仕組み グループ発表
180	2. 行動障がいがある者の固有のコミュニケーションの理解	演習 「整えられた環境での活動」(60)	コミュニケーションの理解と表出の特性 環境にめる情報を整理して大切な情報に気づけるよう ひとりのできる課題づくり
		演習 「体験、情報処理と感覚の違い」(120)	見通しのもてない体験 ことばの意味がわからない体験 視野・注意の向け方の特性 協応統合身体の使用方の体験 多様な刺激の処理 情報の選択と整理 物の見え方の違い
150	3. 行動障がいの背景にある特性の理解	演習 「アセスメント」(60)	支援の根拠を科学的に考察する 自閉症特性シートの使い方 氷山モデルにつなげる考え方
		演習 「氷山モデル」(90)	氷山モデルを使って行動の背景を探る 環境との相互作用という観点理解 グループ討議／まとめ